

## トロイヤー先生ご夫妻との「出会い」

「ICU ってどんな大学ですか？」「ソーシャル、サイエンスって何ですか？」

50 数年前私が高校3年の秋、初対面のトロイヤー御夫妻に伺った初めての質問です。在学中の高校の英語教師と校長から、新設のICU受験を薦められ、とにかくどんな大学か？ 何処にあるのか？ を確かめるべく、三鷹のキャンパスを訪問したことが、御夫妻との出会いの始まりでした。

校舎の他は何も無いキャンパスの道端をうろうろしていた時に、買い物帰りの御夫妻とお会いし、私のキャンパス訪問の目的を知った先生が自宅に招き入れて下さり、クッキーとココアをご馳走になりながら、お話をする機会を与えて下さいました。

私にとって外国人夫妻との会話は生まれて初めての経験でした。いろいろ質問しようとしても自分の伺いたい事項が半分もお伝え出来ず、大変もどかしさを感じておりましたが、ご夫妻の根気良く私の質問をなんとか理解しようと努めておられるご様子が良く分かりました。御夫妻は、ゆっくりと、易しい言葉を選びながらお話を進めて下さいましたが、当時の私の語学力では半分も理解できなかったことが今も記憶に残っております。

時が経ち、多少慣れるにつれて、先生のお話が少しずつ解る様になり、先生のICUに対する熱意を強く感じ取ることが出来ました。会話の終わりに先生の「ICUにチャレンジせよ」と夫人の「待っている」との言葉が私の心に強烈に響き、その時の感動を今でも忘れることが出来ません。どんな言葉で御礼を申し上げて先生宅を辞したかは覚えておりませんが、帰りのバスの中では十分に満たされた気持ちになっていた事は今でもはっきりと覚えております。

当時の私の受験準備は「蛍雪時代」を購入し（ただ買っただけ）母の用意してくれた夜食をとりながら受験用ラジオ放送を聴き、夕方より予備校に通い、月に1、2回の模擬試験を受験し、その結果に一喜一憂する毎日でした。

国立大学を志望して準備を進めておりましたが、トロイヤー先生御夫妻にお会いしてからはICUが第一志望となりました。どの様な準備をすべきか悩んでいるまま受験し、結果としてICU入学が比較的早期に決定したこともあり、他大学は受験せず私の受験戦争は早期終結となりました。

入学手続きの折、再度トロイヤー先生宅を訪問し入学許可をいただいた報告をした時の、御夫妻から頂戴した祝福のお言葉は今でも忘れることが出来ません。

ICU 在学中の4年間は学業以外の事柄も含めて充実した時期でした。三隅先生の奥様に茶道を教えていただき、時には「B アベレージ」を気にしながらも、素晴らしい先生、友人に恵まれ、また、コンヴェンションの諸講師の講話に感動し、また時には反発も感じながらも、満たされた学生生活を過ごす事が出来ました。

先日、LIの諸先輩による文集「THE PIONEERS」をご送付いただきましたが、それぞれの皆様が一樣にICUと御自身との関わりを素晴らしい「出会い」と受け止めておられる事を知り、私もICUの一員として同様の体験が出来た事を大変嬉しく感じました。

70歳を過ぎ今までの人生を振り返ってみますと、学生時代もビジネスの世界に入ってから、トロイヤー先生をはじめとする多くの先生、友人、ビジネスの世界での素晴らしい方々との出会い、それらの方々によりある時は厳しい叱責、また温かい激励を受け、その都度お力添えをいただきながら歩んで参りましたが、「感動する一瞬」をより多く体験できる人生こそ、これに勝る幸せな人生は無いと確信するに至りました。

その意味において、多くの素晴らしい「感動」を与えてくれたICU、会社、そして両親、家族に私は心から感謝しております。

『半世紀遅れの Yearbook』より